

忽滿。以此沒溺。汝兄若兄。悔祈者還。漬潮。潤瓊。則潮。自涸。以此救之。如此逼惱。則汝兄自伏。

〔萬葉集一雜歌〕幸于伊勢國時留京柿本人麿作歌略○中

潮佐爲二五十等兒乃島邊撈船荷妹乘良六鹿荒島回乎

〔萬葉考一〕潮の滿る時波の佐和具をしほさるといふ。ゐは和藝の約め也。卷四浪乃鹽左猪島響といひ。卷十一おきつし保佐爲たかく立きぬなどよめり。

〔萬葉集十七〕天平二年庚午冬十一月太宰帥大伴卿被任大納言兼帥如舊上京之時陪從人等別取海路

入京於是悲傷羈旅各陳所心作歌十首略○中

荒津乃海之保悲思保美知時波安禮登伊頭禮乃時加吾孤悲射良牟

〔萬葉集十三雜歌〕處女等之麻笥垂有續麻成長門之浦丹朝奈祇爾滿來鹽之夕奈祇爾依來波乃波波恐彼誤

鹽乃伊夜益升二彼浪乃伊夜敷布二吾妹子爾戀乍來者略下

〔源氏物語十三石〕月さしてしほのちかくみちきける跡もあらはになごり猶よせかへる浪あらしきを柴の戸をしあけて詠めおはします

〔更科日記〕尾張の國なるみの浦を過るに夕しほたゞみちにみちてこよひやどからんもちうげんにしほみちきなばこゝをも過じとある限りはしりまどひすぎぬ

〔常山紀談一〕太田左衛門大夫持資は上杉宣政の長臣也略○中宣政下總の廳南に軍を出す時山涯

の海邊を通るに山上より弩を射かけられんや又潮みちたらんやはかりがたしとてあやぶみける折ふし夜半のこと也持資いざわれ見來らんとて馬を馳出しやがて歸りて潮は干たりといふいかにしてまりたるやと問ふに遠くなりちかくなるみの濱千鳥鳴音に潮のみちひをぞ知る。とよめる歌あり千鳥の聲遠く聞えつといひけり

〔倭訓栞前編十一〕まほのやほへ 神代紀に潮八百重と見えたり中臣祓に潮の八百道又潮の八